

区立幼稚園見直しの基本的方向について

1 区立幼稚園をめぐる現状と課題

(1) 区内幼稚園の定員充足状況

私立幼稚園の在園児数はほぼ同水準で推移しており、定員に対する充足率は 80% 台後半となっている。一方、区立幼稚園の在園児数は減少傾向にあり、定員 350 人に対する充足率は 80% となっている。区内全体の幼稚園定員には十分余裕が生じている状況である。

(2) 保育所待機児数の状況

女性の社会進出が進み共働き世帯が増加している。さらに、現下の厳しい景気状況の影響を受け、保育所待機児童数は急増している。平成 20 年度に認証保育所の緊急整備、平成 21 年度は私立認可保育所開設や定員の弾力化等、2 か年で 367 人の定員増を実施したにも関わらず、平成 22 年 4 月現在の待機児は 51 人となっており、まだまだ対策が必要な状況である。

(3) 区内幼児人口の状況

区の人口推計によると今後の幼児人口は微増傾向となっている。

(4) 教育・保育ニーズの状況

区の基礎調査によると、幼稚園利用者が望むこととして、預かり保育の実施が 43%、保育時間延長が 26% ある。就学前児童の保護者が今後利用したい保育サービスでは、幼稚園の預かり保育が 33%、認定こども園が 17% となっており、幼稚園における長時間の保育ニーズが見込まれる。

2 見直しの方向

子育て環境の変化を踏まえると、急増する保育需要に応えることや、働きながら幼稚園教育を受けさせたいという保護者のニーズに応える施設が必要と考えられる。

そこで、既に認定こども園へ移行することを決めた幼稚園以外の区立幼稚園 3 園についても、改めて見直すこととする。

区立幼稚園 5 園のうち 3 園は、認定こども園へ移行する。2 園は在園児数の減少や、保育所待機児の状況も踏まえ、就学前の子育て支援策を充実する観点から保育園に転用することとし、以下のとおり進める。

みどりがおか幼稚園、げっこうはら幼稚園

「目黒区実施計画」に沿って、認定こども園へ移行する。

ひがしやま幼稚園

施設の老朽化に伴う将来の改築時期を見据え、認定こども園へ移行する。

ふどう幼稚園、からすもり幼稚園

- ・ 廃園時期は、平成 25 年 3 月末を目途とし、保育園転用に向けてのスケジュール等は別途検討する。
- ・ 保育園転用にあたっては、教育委員会と子育て支援部が連携し別途検討する。
- ・ 今年度に改定が予定される「目黒区行革計画（行動計画）」に廃園及び保育園転用を盛り込むことを目途に検討を進める。